



NO. 562  
発行  
2006・2月25日  
国鉄労働組合  
新潟地方本部  
発行責任者  
守橋久仁雄  
編集責任者  
教宣部

# 風は見えない風対策強化を



二月一八  
日二時よ  
り『安全問  
題』について  
合同会議が  
支部代表・  
職協代表が  
集まり開催  
しました。各  
支部から二  
〇名の出席  
でした。  
は守橋久  
橋委員長の  
あいさつ。そ  
の後、全体  
討論に移り  
ました。

## 各部・職協代表者集まり 全体討論から

『規制緩和』と労働組合のチエック機能を。職場の安全摘発行動をしていたが、具体的に出してこなかった。風対策について要求を以前していたが継続されていない。雪・風ですぐ規制、規制になるとすくく乱れる。ダイヤの見直しし、早目規制に對

## 1万円の要求

守橋委員長あいさつ 2/18

代表者会議で守橋委員長から中央委員会の報告がありました。安全問題について国労本部は国交省へ、エリア本部は本社へ申し入れを行っています。国労の組織を上げて取り組む構えで進めています。『2・16集会』は、2500名結集。新潟からも11名が参加。会場は入りきれない状況。

この集会は当事者である国労闘争団・全動労争議団・鉄建公団訴訟原告団などが実行委員会を結成し成功させた。政治的なアピール・大きく団結する意志結集の場になった。キャラバン行動を九州で取り組む。『2・16集会』の成功をどうつなげていくのか。=4月に、これに上回る集会を本部は計画をしている。要求の一本化=JRへの雇用問題はあきらめない 新たな訴訟・裁判を目的としない。裁判で決着をめざさない。時効の関係で7月の全国大会で決断する。春闘=1万円の要求2月7日申し入れ・3月17日統一回答日。中央行動計画・政治的な課題と結合して。



対応できるもの。それを見込んでのダイヤ設定を。  
『伯備線の事故』（一月二四日）、事故に対しての要求を強く取り組んでいない。労働条件=安全問題、事故についてのプロジェクトをつくる。異常気象時の警戒態勢、雨や雪についての反応は強いが風に対する認識が弱い。大雪警報はあるが、暴風警報は無い。

## 架パン事故防止



風規制=架線の横揺れが発生する可能性があるとして規制する。電力支区长から電力指令そして輸送指令へ。変電所に風速計を設置。  
風規制は架線事故を防止するため（架パン事故）のものだった。風で列車が脱線・転覆すると考えていなかった。

## 風は見えない

## 運転士は分からない

電力指令は一種、三種まで警備基準があった。風規制の考え方、架線事故防止のため。風規制は、電力指令が要請していた。  
運転士は規制が無い限り運転する。雪・雨・水については注意運転はできるが、風は見えないから運転士は状況が分からない、判断できない。運転士、遅れの場合は三〇秒でも一分でも回復させたいと考える。規制緩和=スピードアップ化へ。新幹線=デジタルATC化=スピードアップ。

天災ではあるが、対策についてどうだったのか。危険だと認識していない。風向きが急が変わって警報が発生した時の対策が無い。風は見えないから判断できない。風規制、通告を受けて注意運転の指令。その後、風がおさまる。難しい。



(裏へ続く)



## 全体討論

暴風柵設置することによって吹き溜まりができる。風が吹いてから規制し脱線してから規制がかかっても。

北越急行は風に対する通告・注意がある。集会で雪対策の意見が多い安全に対するものは本社で予算をつけて対策する。新潟、高崎への乗り入れ時、乗務無線機の取扱いが違う支社間の取扱が異なっている。チャネルが違い連絡が取れない時がある。



松くい虫、防風林が伐採されて無い(羽越線)。設置を海岸線に。地震についても同様に対策を。乗務無線のデジタル化を早急に要求を。運転規制が運転台に表示できるように。無線機、トンネル内での通話が出来ない箇所がある。調査を。

除雪対策 MRの配備。なだれ対策を。雪を理由にすぐ列車を止める指令の指示のやり方はどうなのか。MRは出せる準備がされているが、列車を出して停まってしまう。災害に対するの指揮命令系統はどうか。

# 今後の日程

3/4 春闘統一行動日

3/14 貨物総行動

3/17 青・婦・家・中央総行動

3/25 3・25新潟県民集会  
憲法・教育基本法改悪反対  
医療大改悪反対・庶民の大増徴を許さな、!

4/4 中央集会 (未定)



# 提言化を

議論は三時間と限られた時間でしたが多くの意見が出されました。また、職協の立場から専門的な意見も出されました。

関川書記長から中間的なまとめをしました。関川書記長は『今後継続し調査していく。提言化を図っていく。新潟からエリア本部へ』



新潟として出していく。そして関係の問題点 安全に対する設備投資 必要な要員配置について調査し、まとめていく』とまとめました。

担当

運転 田沢業務部長  
運輸 石川組織部長  
施設 野村闘争委員

要求化しJRへ申し入れる。国交省へも要請し安全に対する設備投資について。  
四月～五月までに提言化していく

